



鬼怒川合宿。交流の大切さをあらためて感じました。

- ・理事のエッセイ&自己紹介 (沼尾、白井)
- ・登校拒否を考える夏の全国合宿参加レポート
- ・ホームページ <http://www.nantonakuno.net/>



## 「なんにわ」の5ヶ月

4月より週2回の「居場所」がスタートしてから5ヶ月が過ぎました。本年度に入り、市内のいくつかのイベントに参加。チラシや展示などによる広報活動に力を入れました。また、6月の今市市内校長会では私たちの活動を紹介する機会をいただきました。同じ時期に、金田教育長による「若杉学級と同等の扱いが可能」等の市議会答弁もあり、小中学校の「居場所」を見る目が変化してきたのではないかと思います。ここ5ヶ月の利用者数、相談・訪問数とも、わずかながら増加しており、活動の広がりを感じます。

夏休みに入り、近くの小学生の集団がやってきました。学校に送ったチラシで見た「子供の居場所」とはいったい何なのか調べに来たのです。いまの私たちには、この元気な小学生集団に、「別のところで遊んでね」というしかありません。こんな経験から、土曜日などに子どもたちと遊んだりしながら、振興会館の環境を生かした新しい「学び」を作り出していきたいという声スタッフが中からあがっています。

7月9日(土)の学生サークル(宇都宮大)との共同イベント「ストリートチルドレンを知る」は、そんな試みのひとつでした。今市小学校から学童保育の子どもたちが多数参加し、にぎやかな国際理解の集まりとなりました。内容の難しさもあって、自主的に申し込みをしてきた子どもたちはわずかで、近くの学童保育に声をかけ、参加してもらいました。それでも、学生の働きかけに積極的に反応し活発に発言する子どもたちの姿に、このような催しの大切さを感じました。これからは「居場所」ともリンクする形で定期的にこのような催しを企画していきたいと思います。広く子どもたちを対象にしたイベントを行うことにより、「居場所」の存在が知られていくという効果も期待できるのではないのでしょうか。

先生方の訪問も少しずつ増えてきました。「なんにわ」が、子どもたちの学びや進路について、先生方と親とが自由に意見を交換できる場になっていければと思います。(手塚)

**お知らせ：「むかしばなし玉手箱」** 10月1日(土) 午後1時半から、報徳今市振興会館にて

語り：大沢に住む 昔語りのおじいさん **はなおかひろし** さん (参加無料です)

**プログラム**：「とりのみじい」(日本)、「犬とねことうろこ玉」(日本)、「アナンシと五」(外国)、など

### 目次：

- 「なんにわ」の5ヶ月 1
- シリーズ「はじめまして」 2
- 鬼怒川合宿レポート 3
- 活動目的・入会のお願い 4

### なんとなくのかんばん・その3

入り口の看板ができあがりました。道路から見ると、会館が奥まっけて入りにくいのではという理事の発案で、隅さんに制作をお願いしました。毎週火曜日、金曜日、今市郵便局の隣にある石の門柱脇に立っています。



## 2 なんとなくのひろば

理事の沼尾と申します。本会も設立して7ヶ月が経ちますが、スタッフたちもそれぞれ持ち味を生かし、様々な出会いがあり、私自身もこの場所で楽しく過ごしながら社会に貢献できることを誇りに思っています。不登校から親子共々、5、6年という歳月が過ぎ、一步一步ここまで歩んでまいりました。子どもたちからも、すばらしい心の宝物をもらっているなぁと実感しています。今、悩んでおられる親御さん、地域のみなさん、「テレビの情報」だけで決めつけないで、真実を、自分の目で見てください。子どもの気持ちを理解して、対応の仕方を学んでほしいと思います。まずは「なんとなくのひろば」にいらしてみてください。

### はじめまして：その3 沼尾理奈子 理事



### はじめまして：その4 白井佐智子 理事



理事の白井佐智子です。

私は、かつて小学校の教員をしていましたが、個人的な事情で退職してしまいました。しかし、何らかの形で教育に携わっていきたくと日々考えて

おり、このような場で子ども達に関われることを嬉しく思っています。

現代は、大人にとっても、子どもにとっても、かなりストレスの多い時代だと思われま。私たちは、協調することをとても大事に考えて生活していますが、協調することばかりに気を使いすぎると、自分の本当の気持ちが見えなくなってしまうように思います。大人も子どもも、もっと自分らしさを発揮していいんじゃないでしょうか。多分、それは、ただのわがままとは違うはず。この「なんとなくのひろば」が、お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃんまでが、なんとなく憩える場になったら、最高だなと考えています。

## 今市市内校長会で講話

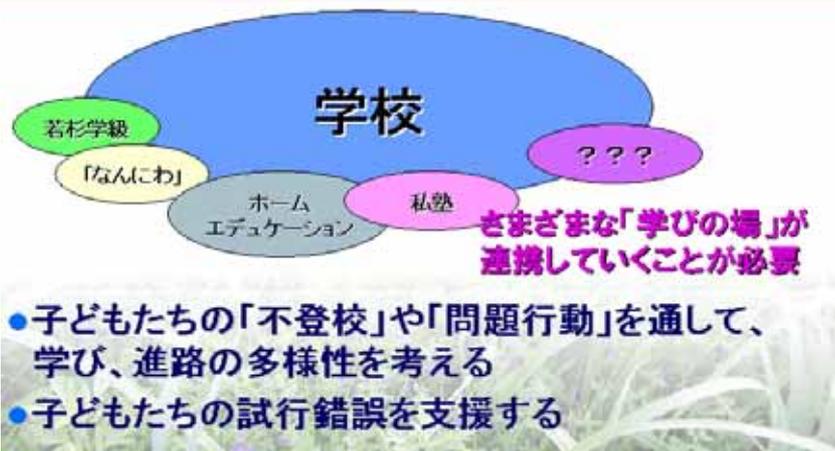
6月15日、市内の校長先生19名が報徳今市振興会館の大広間に集まりました。この日に行われた校長会プログラムの一部ということで、ここ1年の「なににわ」の取り組み、これからの構想について話をする機会をいただいたのです。NPO設立の動機、その経過などから始めて、現在の不登校をとりまく状況などについて約30分、話させていただきました。右はおしまいに使ったスライドです。学校の周囲にさまざまな学校外の学びの場が作られ、お互いに協同して子どもたちを育てていくというイメージを図にしてみました。

高校進学が子どもたちの学校生活にとって大きな圧力となっています。けれど制度的には、中学卒業後の進路選択は以前よりもずっと多様化しているのです。子どもたちは、自分の進路を自分で選択することができます。先生方はそのことを理解し、視野に入れて、子どもたちとつきあってほしいというような話でしめくりました。

もちろん、一人ひとりが自分の進路を選択していく過程は単純ではありません。進路選択をほんとうに「指導」できるのかということさえ、考えるとわからなくなります。義務教育を終えてから、自分の選んだ進路が「失敗」だったと思う人がいるはず。中学卒業で就職する道を選んでも、どんな高校、大学に進学しても、「ここは自分の来たところではなかった」と気付くことがあるはず。そのときに、「自己責任」などと冷たく突き放すのではなく、その人の置かれた状況に応じて「やりなおし可能」な仕組みが準備されていることが「多様化」に対応した社会の条件です。「進路を選ぶときの自由度」と、そのセーフティネットとしての「多様化」は相補的な関係にあるように思いますが、こんなことを書いている私の中でもうまく整理ができていません。「頑張れば夢は実現する」という精神論ではなく、「進路選択の失敗」まで含んだ情報を子どもたちに冷静に伝えていくこと、そんな「進路指導」は可能なのでしょうか。こんなことを自由に話し合う場を作るのも「なににわ」の仕事かもしれません。

(手塚)

## これから...



- 子どもたちの「不登校」や「問題行動」を通して、学び、進路の多様性を考える
- 子どもたちの試行錯誤を支援する

8月27日(土)・28日(日) 鬼怒川温泉で開催されました。全国から500人を越える参加者が集まり、大盛況。私たちも、吉成さんを中心に「子どもそば打ち体験」企画でお手伝いできました。また、分科会では西尾さんが「なににわ」を紹介。本会メンバーの参加レポートをまとめてみました。

#### 講演「登校拒否・ひきこもりを生きる」

高岡健(岐大医学部助教授・精神科医)

ニート、引きこもりの人たちを個人の生き方として考えるなら、それは本人が必要だから選択しているのである。子どもの頃の小さな引きこもりを否定されてしまうと、大きな引きこりに続いてしまう。周囲ができることは、引きこもりを無条件で保障してあげることだけ。選んでいる人の喜びは、自分の考えが広がり、自分のやっていることに厚みが出てきたときに感じられる。認められれば進んでいく。ニート、引きこもりの人たちは、今までとは違う組織、企業、労働のスタイルを作っていくはずである。(西尾)

#### 夜の分科会「こどもとおとなのしゃべり場」は理事が手分けして参加しました...

##### 分科会「親の悩みを聞いて」(渡辺位さん)

親の悩みは計り知れないものがあります。静岡県から来たお母さんは子どもが高校を卒業してからずっと引きこもっていて、現在22歳。たくさんの葛藤があったが、今は「子どもと一緒に生きられればいい」と腹をくくっていたのが印象に残っています。隣り合わせになった西方のお母さんと知り合いになり、名刺交換。分科会の翌日、電話がかかってくるいろいろな話をしました。(村上)

##### 分科会「学校にいいこと」(内田良子さん)

子どもが学校で体験する息苦しい生活について、東京シューレの子どもたちが中心に語ってくれた。アドバイザーの内田良子先生は、子ども達の思いを丁寧に受け取っておられて、とても好感が持てた。今の学校そのものが、変わるべきときに来ていることを痛切に感じた。(白井)

##### 分科会「居場所をこどもと一緒に考える」

(奥地圭子さん)

##### 参加した子どもの話から

・フリースクールの中でも「押しつけがましいオーラ」を出すところもあるが、今のところは「普通」に接してくれるので気に入った。(12歳・男の子)

・中学の雰囲気合わなくて、中2でやめた。一日中気が抜けない、感じやすい自分がいたが、今は、フリースクールに「居てもいいんだ」と思えるようになった。(18歳・女の子)(西尾)

##### 分科会「おとなにももの申す」(森英俊さん)

森先生の自分の不登校経験の話。そして、集まった方々の自己紹介。子どもが大人に言いたいことなどを話しました。「まず、私の気持ちを親にわかってほしかった」「親の期待に応えない自分は駄目な人間と思え、自己否定してつらかった」という娘さんの話が印象に残りました。子どもと親の気持ちのズレをどうやって修正していくか、わからない親が多い。子どもは無理な我慢を重ね、精神的に追い込まれます。心理的な圧力をかけず、子どもの気持ちを聞いてあげることが大切だとあらためて思いました。(沼尾)

##### 分科会「日本の教育を外からながめてみよう」

世界のフリースクール事情について、シューレの朝倉景樹さんの話を聞きました。(手塚)

## 活動報告

- 5月23日(月) 教育委員訪問 午後3時~4時 教育委員長、教育委員、市教委事務局が訪問
- 5月23日(月) 映画「ハードル」上映会(西尾)
- 6月4日(土) 報告および学習会(市民活動支援センター、10名参加)
- 6月15日(日) 今市市校長会(19名)で講話(手塚)午前11時30分~12時
- 6月21日(火) 市議会・教育経済常任委員(6名)視察
- 6月27・28日(月・火) 7月9日のワークショップちらし、市内小中学校に配布
- 7月9日(土) バングラディッシュ・ストリートチルドレンについてのワークショップ  
シャプラニール架け橋の会(宇大学生サークル)との共催
- 7月26日(火) 市政見学会で市民25人が訪問  
夏休みのため、この週から8月いっぱい金曜日のみ開設
- 7月31日(日) ベリー会(宇都宮にて、吉成)
- 8月12日(日) 4月から7月までの活動報告書を市教委に提出
- 8月27・28日(土・日) 登校拒否を考える夏の全国合宿2005 in鬼怒川 参加

## 特定非営利活動法人 なんとなくのになわ

〒 321-1261 今市市今市 378  
電話/Fax 0288-21-2631  
E-mail: info@nantonakuno.net

ホームページもご覧ください  
<http://www.nantonakuno.net/>



# のんびり、ゆったり、 自分らしく

私たち「なんとなくのになわ」は、子どもたち、青少年等に居場所と学びの場を提供することを目的としたNPO法人です。本年2月、今市市で15番目に認証を受けました。この法人名は子どもと大人の合作で、ゆったりとした時間の流れと空間の広がりを表しています。ここに関わっている理事やスタッフは、子どもが不登校や引きこもりを経験した親、その本人、教員経験者などで、他の市民活動にも積極的に関わっている好奇心旺盛なメンバーです。そして「みんなちがって、みんないい」を大切にしています。

現在は子どもたち数名が通っています。読書、オセロゲーム、トランプ、将棋、テレビゲームなどをして思い思いに過ごしています。スタッフのお兄さんが人気で異年齢の交流に花が咲いています。また、会館のレトロな雰囲気は、相談に来られる方や、大人の居場所としても最適です。小鳥のさえずり、木々を渡る風の音、そしてコーヒーの香りとおしゃべりに心癒されています。

今、少しずつ、子どもたちから、親から、こんなことをやってみたいという声が出始めたので、地域の方々の力を借りながら、ひとつひとつ実現していきたいと思えます。

これからも、子どもたちの気持ちに添った活動を展開し、子どもたちの生きる力を応援して行きたいと考えています。どうぞ気軽にお茶を飲みにお寄りください。お待ちしております。(西尾敬子)

今市市広報向けに書いたものを一部修正。  
この紹介文は、「クロスロード 2005年7/8月号」にも掲載されました。

## なんとなくのへや

7月末、お世話になっている報徳今市振興会館の網戸張り、草刈りを行いました。会館の窓はもちろん木枠です。古い網を外して、新しく張り替え。意外にスムーズに進みました。生い茂った草を刈り取り、庭も少し広く見えるようになりました。建物の裏には竹が茂り、ガスの元栓を開きに行くのも一苦労といった状態。はびこった竹を草刈機で倒していくと、上の方から「ぶーん」という音。見ると蜂が5、6匹、飛んで来るではありませんか。あわてて逃げ出し、しばらくしてそーっと戻って倒した竹をよく見ると、舟形の蜂の巣を発見。奥にはもっと大きな巣がありそうです。7～9月は蜂が活発化する季節。寒くなるまで竹刈りは中止ということになりました。(T)

## 私たちの活動目的：

今市市およびその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して学習や自立の支援活動を行い、地域の人々が支える新たな学びの場を作り出すことを目的とします。

## 私たちの事業：

子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営  
子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発  
インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援

教育についての相談や情報提供活動  
学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動

自然環境の中での学びを作り出し、子どもたちに自然環境保全の大切さを啓発する活動

## 現在の会員数

正会員 25  
賛助会員 5  
団体会員 2

入会金はありません。

年会費(一口)は以下のとおりです

正会員 3,000円  
賛助会員 個人 5,000円  
                  団体 10,000円

写真：報徳役所書庫(会館脇にあります)

